

**熊石ならではのイベント
熊石あわびの里フェスティバル**

熊石あわびの里フェスティバルは、日本海でのアワビ養殖漁業に先駆的に取り組んできた熊石地域ならではの観光イベントとして知られています。毎年5月、満開の八重桜のもとで美味しいあわび料理を食べようと、会場となる青少年旅行村は近隣にとどまらず、札幌など道央圏からも多数訪れます。

平成7年の第1回開催以来、熊石特産のあわびを広くアピールしてきました。あわびのつかみ取りやあわびを食材としたさまざまなメニューが、あわびを目当てに訪れた来場者に人気です。また殿様にあわびなど特産品を献上するセレモニーやステージからの紅白餅まきは、あわび焼き当たり券入りの餅もあって、大いに盛り上がりです。あわびオーナー抽選会では当選者にあわびオーナー認定書が授与されます。このフェスティバルでは毎年、熊石第二中学校生徒による相沼奴（八雲町無形文化財）も披露され、食と郷土芸能など盛りだくさんの内容で春の一日を楽しむことができます。

春夏秋冬、四季折々の祭り・イベントで賑わう八雲町

道央自動車道の八雲パーキングエリア開設と合わせて、平成18年に開園した道立公園噴火湾パノラマパークは、八雲町の新しいイベントエリアになっています。噴火湾パノラマ

パーク大収穫祭は、園内のふれあい農園で育てられた作物の販売等を行う、秋恒例のイベント。冬になると、八雲さむいべや祭りが開かれます。寒さを逆手に取って雪と親しもうというこの祭りには、親子連れなど大勢の町民が参加して楽しんでいきます。このほか熊石商工会夏まつり、熊石産業まつりも、また晩秋に開催

される八雲漁協の「やくも大漁秋味まつり」と落部漁協の「おとしべ豪海フェスタ」は、噴火湾の八雲沿岸に北海道で最も遅く回遊してきた大型のサケを求める人々で賑わいます。このように、八雲町内では春・夏・秋・冬を通じて、四季折々の祭りやイベントが開催されています。



●熊石あわびの里フェスティバル



●おとしべ豪海フェスタ(左) / やくも大漁秋味まつり(右)

10月末の日曜日には八雲漁協のやくも大漁秋味まつりが、11月上旬の日曜日には落部漁協のおとしべ豪海フェスタが各々開催される。両イベントともに恒例のサケのつかみ取りでは、子どもも大人も必死になってサケを追いかける姿に会場から歓声があがる。サケのほかにもホタテやホッキ、ボタンエビなど、新鮮な魚介類を買い求める人々で賑わう。



●噴火湾パノラマパーク大収穫祭

噴火湾パノラマパークの秋恒例のイベント。園内のふれあい農園で育てられた農産物の詰め放題や果実の収穫体験などが開催される。道央自動車道八雲パーキングエリアからも直接入場できるため、例年多くの人が訪れる。

●愛知県小牧市との友好都市交流 / 児童交流

旧尾張藩により本格的開拓が始まった八雲町には、小牧市をはじめ愛知県出身者が多いことから、市民交流などが行われている。

●納涼ユース花火大会

八雲観光物産協会の主催で、隔年8月上旬に遊楽部川河川敷で開催。1,000発の花火が八雲の夜空を彩る。



●八雲さむいべや祭り

2月上旬の土・日2日間にわたって、噴火湾パノラマパークを会場に開催される冬恒例のイベント。長さ日本一と認定されている100mの氷の滑り台に子どもたちの歓声があがる。スノーモービル白熊号の運行、チューブそり滑りや雪中駅伝競走のほか、お楽しみゲーム大会、八雲中学校吹奏楽部の演奏もある。



●熊石産業まつり(上) / 熊石商工会夏まつり(下2点)

過ぎ行く夏を締めくくる熊石地域の商工夏祭りは、ピアガーデンや花火大会で賑わう。9月下旬には熊石産業まつりが開催され、鮭をはじめ、水産加工品・新鮮野菜の販売のほか、鮭すくい大会などのゲーム大会や鮭チャンチャン焼き・鮭鍋が無料で食べられる。



●熊石あわびの里フェスティバルの賑わい